

ショートコメント vol.23 (2014年4月21日)

テーマ：消費の高付加価値化の流れは不変か

～「プチ贅沢」はシニアへの依存度が高まる見通し～

注目を集める「プチ贅沢」

消費増税後の消費動向が注目される中、「プチ贅沢」をはじめとする高付加価値化の流れに大きな変化はないとみられています。この「プチ贅沢」は、価格が少し高くても、こだわりのある商品やサービスを購入する動きであり、近年の消費トレンドの一つとなっています。その目的や状況に応じて、「こだわり消費」や「メリハリ消費」、「ご褒美消費」とも表現されますが、低価格志向とは一線を画す動きとして、価格競争に苦しむ企業には貴重な動きとなっています。

今春の賃上げなどによる所得の増加を背景に、このトレンドは増税後も堅調に推移するとされていますが、個別の事例をみても、賃上げの規模が増税の負担増を上回るケースは少ない状況です。結果として、消費者の間で節約志向が高まることを考えれば、今後はむしろ安い商品へのニーズが増え、「プチ贅沢」の動きに影響が出てもおかしくありません。

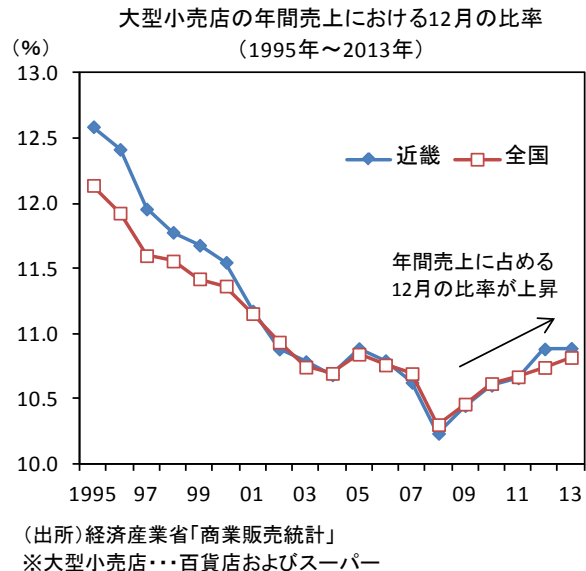
「プチ贅沢」の見通し

このような「プチ贅沢」を取り巻く状況の変化を勘案すると、今後は勤労者世帯の動きが鈍化し、シニア頼みの傾向が強まると予想されます。というのも、勤労者世帯にとって「プチ贅沢」は無条件の行動ではなく、あくまでもメリハリ消費の一環とみられるからです。

メリハリ消費とは、日常的には節約を進める一方、特別な日にはちょっとした贅沢を楽しむ動きであり、近年のクリスマスや年末商戦の売上を押し上げる原動力にもなってきました(図表)。所得がなかなか増えない中、贅沢を可能にしてきたのは日々の節約であり、これがうまくいかなければ存続は難しくなります。今後は増税によって生活必需品の価格も上昇することを考えれば、金銭的にもマインド的にも、贅沢を楽しむ余裕はなくなっていくのではないのでしょうか。

シニアによる需要の動向

このように、勤労者世帯の「プチ贅沢」が縮小を余儀なくされる一方、シニアに関しては今後も堅調な推移が予想されます。増税の影響は多少あるとみられるものの、シニアの消費行動は「価格よりも質を重視する」という価値観に支えられた部分が大きく、価格の変化には左右されにくいとみられます。



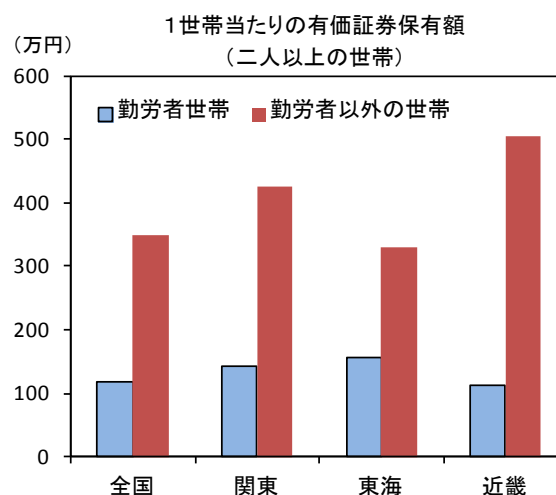
※本稿は情報提供が目的であり、商品取引を勧誘するものではありません。また、本稿は当社が信頼できると判断した各種データに基づき作成しておりますが、その正確性、完全性を保証するものではありません。なお、本稿に記載された内容は執筆時点でのものであり、今後予告なしに変更されることがあります。

それに伴い、増税後についても、食料品などの生活必需品をはじめ、レストラン、旅行などのサービス・レジャー関連、趣味の雑貨関連など、幅広い分野での動きが期待されます。

株高による資産効果の動向

ここまで、「プチ贅沢」を支える要素として、メリハリ消費やシニアをみてきましたが、そのほかにも株高による資産効果が挙げられます。これによって、昨年来、百貨店などを中心にワンランク上の商品を買う動きが増えてきました。今後も株高傾向が続くとすれば、幅広い年齢層で「プチ贅沢」の動きが続くものとみられます。

ただし、この株高関連の動きについては、関西は全国と少し違った見方をしなければなりません。というのも、株などの金融資産がシニアに偏る傾向が強いため（図表）、株高による追い風もシニアに集中しやすいと考えられます。そのため、仮に株高が続いたとしても、勤労者世帯による「プチ贅沢」の大きな増加にはつながりにくい点に注意が必要です。その結果として、関西は全国以上に勤労者世帯の存在感が低下することになりそうです。



(出所)総務省「家計調査(貯蓄・負債編)2013年7-9月期」
※ 勤労者以外の世帯…無職者、個人事業主など

本件照会先:大阪本社 荒木秀之
TEL:06(4705)3635 mail:hd-araki@rri.co.jp

※本稿は情報提供が目的であり、商品取引を勧誘するものではありません。また、本稿は当社が信頼できると判断した各種データに基づき作成しておりますが、その正確性、完全性を保証するものではありません。なお、本稿に記載された内容は執筆時点でのものであり、今後予告なしに変更されることがあります。